

■日時 平成30年8月17日(金) ■天候 晴れ 日本ウェルネス高等学校 通信制 対 福岡県立ひびき高等学校

■球場 府中市民球場 第4試合 準決勝 ■試合時間 2時間13分 ■備考

■審判 球審:清水 塁審:菊池 大和 鈴木(優)

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9					計	安	失
ひびき	福岡	0	0	1	2	0	1	0	1	x					5	4	2
日本ウェルネス・通	東京2	4	0	2	1	1	1	0	3	x					12	11	5

ひびき		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	二		高井直輝	4	1	1	0	三振		投安		二ゴ		遊失						
2	遊		山本龍斗	4	0	1	1	遊飛		左安		三失		三ゴ						
3	捕	一	古田聖矢	4	0	0	0	三振			一飛	三ゴ			中飛					
4	投	一	富永将吾	1	3	1	0		四球		四球		四球		左安					
5	左		西田豪太	2	1	0	0		投犠		四球		遊ゴ		三ゴ					
6	一	中	光安慶人	2	0	1	2		三振		左2		四球		四球					
7	右		今井優太	2	0	0	0		三振		三振									
7		投	仁禮智	2	0	0	1							投ゴ		三失				
8	中	右	岩藤友嘉	4	0	0	0		三振	三振			左飛		三振					
9	三		松浦玲音	3	0	0	0			遊ゴ		三振		投ゴ						
合計				28	5	4	4	残塁:6 併殺:0												
備考																				

■バッテリー

投手	捕手
富永将吾	古田聖矢
仁禮智	富永将吾

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
富永将吾	4	23	6	4	3	2
仁禮智	3 1/3	18	5	5	3	5

日本ウェルネス・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	投	遊	津澤拓実	3	2	1	0	投安	遊飛	二ゴ			四球							
1		打	老田翔	1	0	0	0						三振							
2	二	一	小松拓毅	3	2	1	0	投飛	三ゴ		四球		死球		中安					
3	一	左	坂元レオ	5	2	2	1	投失	二ゴ		一ゴ		右2		右安					
4	遊	二	中山隼	5	3	3	2	右安		左安	投飛		守妨		中3					
5	中		大城海人	5	1	2	2	三振		左2	中安		三振		三振					
6	捕		東龍	3	2	1	0	振逃		死球		中2	三ゴ							
7	左	三	富山義士	3	0	1	2	左安		遊失		三ゴ		死球						
8	右		金木脩祐	4	0	0	1	遊飛		三振		一ゴ		三振						
9	三	投	南馬僚介	3	0	0	0		四球	三振		二ゴ		三振						
合計				35	12	11	8	残塁:7 併殺:0												
備考																				

■バッテリー

投手	捕手
津澤拓実	東龍
南馬僚介	

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
津澤拓実	4	17	3	7	3	3
南馬僚介	4	18	1	2	3	0

■戦評

府中球場で行われた準決勝第2試合は、どちらも初出場ながらここまで勝ち上がり午前中同球場で行われた準々決勝を共にコールドで制した日本ウェルネス高校・通信制と福岡県立ひびき高校の対戦となった。日本ウェルネスは初回二死満塁から振り逃げにより二者が生還し先制すると7番富山の適時安打により2点を追加する。3回表ひびきが2番山本の適時安打により1点を返すが日本ウェルネスはその裏5番大城の適時三塁打と敵失により2点を追加する。なおも4回5回6回と1点ずつを追加し試合の主導権を渡さない。対するひびきも4回に6番光安の適時二塁打により2点を6回8回は相手のミスをおさず1点ずつを返し追いつく。引き離したい日本ウェルネスは8回裏4番中山が2点適時三塁打を放つと暴投の間に自らも生還し7点差をつけ試合を決めた。序盤から終始試合を優位に進めた日本ウェルネスが8回コールド12-5で勝利し決勝に進出した。一方決勝進出はならなかったひびきだが、主将古田と投打の軸である富永を中心に攻守にわたってよくまとまっており、コールドで敗れたこの試合でも最後まで全力で戦い抜いたその姿は全国三位の名にふさわしいものであったことは言うまでもないだろう。